

超高齢看護開発特講
Advanced Lecture/Seminar on Development of Nursing Care in Super Aged Society

開講年次：1年次（前期） 単位数：2単位

○原 祥子：地域・老年看護学講座教授
小笹 美子：地域・老年看護学講座教授
泉 キヨ子：嘱託講師
（帝京科学大学医療科学部看護学科教授）
津本 優子：基礎看護学講座教授

1. 科目の教育方針

現在、日本は世界最長寿国であるとともに、後期高齢者の急激な増加という、世界的に前例のない超高齢社会を迎えている。この超高齢社会における人々の生涯にわたる健康と尊厳ある生活・療養を支援するために、地域特性や多様なコミュニティの特性に応じた様々な健康課題を包括的に捉えたうえで、新たな看護ケア方法の開発や理論開発による健康課題解決の可能性を追究する。

2. 教育目標

- 1) 国内外の研究・実践の動向を多角的に分析し、超高齢社会における顕在的及び潜在的な健康課題を整理する。
- 2) 国内外の論文クリティークを通して、超高齢社会における人々の健康課題解決に向けた研究開発の方向性を見極め、研究課題を探索する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。

最終回は、安全ケアシステム開発との合同セッションとし、研究開発による「超高齢看護学」の構築を展望する。

【評価】

プレゼンテーションの内容、討論への取り組み状況等により総合的に評価する。

4. 使用テキスト、参考文献等

テキストは指定しない。参考文献等を適宜提示する。

【論文クリティークのための参考文献】

- 1) 山川みやえ，牧本清子：研究手法別のチェックシートで学ぶ よくわかる看護研究論文のクリティーク，日本看護協会出版会，2014.
- 2) 牧本清子：エビデンスに基づく看護実践のためのシステムティックレビュー，日本看護協会出版会，2013.

5. 教育内容

回	月/日	内 容	講師
1	4/8	高齢看護学で活用されている理論・アプローチの動向と限界	原 祥子
2	4/22	※学生の看護実践に基づく問題意識や以下のテーマに関する国内外の論文クリティーク（システマティックレビュー（SR）の検索データベース JBI COnect+（Aged Care 領域など）やコクラン・ライブラリーに掲載されているSRのクリティークによる臨床ケアの方向性の検討を含む）を通して、超高齢社会における人々の健康課題を整理し、その解決に向けた研究開発の方向性を探究する。 ・高齢者の自我発達支援 ・高齢者のエンパワメントの概念と実践 ・高齢者の健康生活評価（包括的アセスメント） ・後期高齢者・超高齢者の QOL 評価 ・フレイル(frailty)の予防・介入 ・認知症ケア・エンドオブライフケア ・高齢者の家族介護者支援 ・高齢者ケアの質評価、標準化 ・高齢者医療・看護における倫理的課題 ・ケアコーディネーションの理論・方法論の開発	原 祥子
3	4/22		
4	5/20		
5	5/20		
6	6/17		
7	6/17		
8	6/3		
9	6/3	※国内外の論文クリティークを通して、地域特性や多様なコミュニティの特性に応じた人々の健康課題を整理し、その解決に向けた研究開発の方向性を探究する。 ・高齢者の生きがいや社会参加への支援 ・高齢者のヘルスリテラシーと健康との関連 ・人々の信頼関係や地域のネットワークに基づく健康づくり活動の推進 ・高齢・過疎地域における減災 ・高齢期への備えとしての成人保健対策の強化と効果的な健康教育	小笹美子
10	7/1		
11	7/1		
12	未定	高齢者リハビリテーション看護学で活用されている理論・アプローチの動向と限界	泉キヨ子
13	未定	高齢者の転倒・骨折予防に関するプログラムやシステムの開発における現状と課題	泉キヨ子
14	7/22	※安全ケアシステム開発との合同セッション 総括：研究開発による「超高齢看護学」構築の展望	原 祥子 小笹美子 津本優子
15	7/22		